

電測チャンネルテーブル編集ソフト

取扱説明書

目次

1.	仕様	1
1.1	概要	1
1.2	適用機種	1
1.3	対応チャンネルテーブル	1
1.4	PC環境	1
2.	使用方法	2
2.1	はじめに（重要）	2
2.2	メニュー画面	2
2.3	新規作成	3
2.4	チャンネルテーブル作成・編集	4
2.5	チャンネルテーブル読み込み	5
2.6	チャンネルテーブル保存	6
2.7	測定設定・システム設定の読み込み	7
2.8	測定設定・システム設定の保存	8
2.9	保存先の指定について	9

1. 仕様

1.1 概要

本ソフトは、電測の地上波・CATV チャンネルテーブルをパソコン（以下 PC）上で作成、編集を行うものです。Microsoft Excel 上で動作するアプリケーションですので、基本的な使用方法は Excel に準じた使用方法となります。

1.2 適用機種

LF985、LF985A、LF986、LF5x シリーズ、LF990

1.3 対応チャンネルテーブル

- ・ 地上波
- ・ CATV

※ BS、CS のチャンネルテーブルは、本ソフトで編集を行うことができません。

1.4 PC環境

OS：Windows 7 / Windows XP（動作確認済）

動作確認済ソフト：Microsoft Office 2003 / 2007 / 2010

※ Windows 7 / Windows XP、および Microsoft Office Excel は、米国マイクロソフト社(Microsoft Corporation)の米国およびその国における商標または登録商標です。

2. 使用方法

2.1 はじめに（重要）

本ソフトを使用してチャンネルテーブルを作成する場合、あらかじめ必ず電測本体のチャンネルのバックアップを行ってください。チャンネルテーブルの損失、破損等につきまして当社では保証いたしません。

また、本ソフトはExcelのマクロ機能を使用しているため、セキュリティ設定により動作できない場合があります。設定をご確認の上、ご使用下さい。

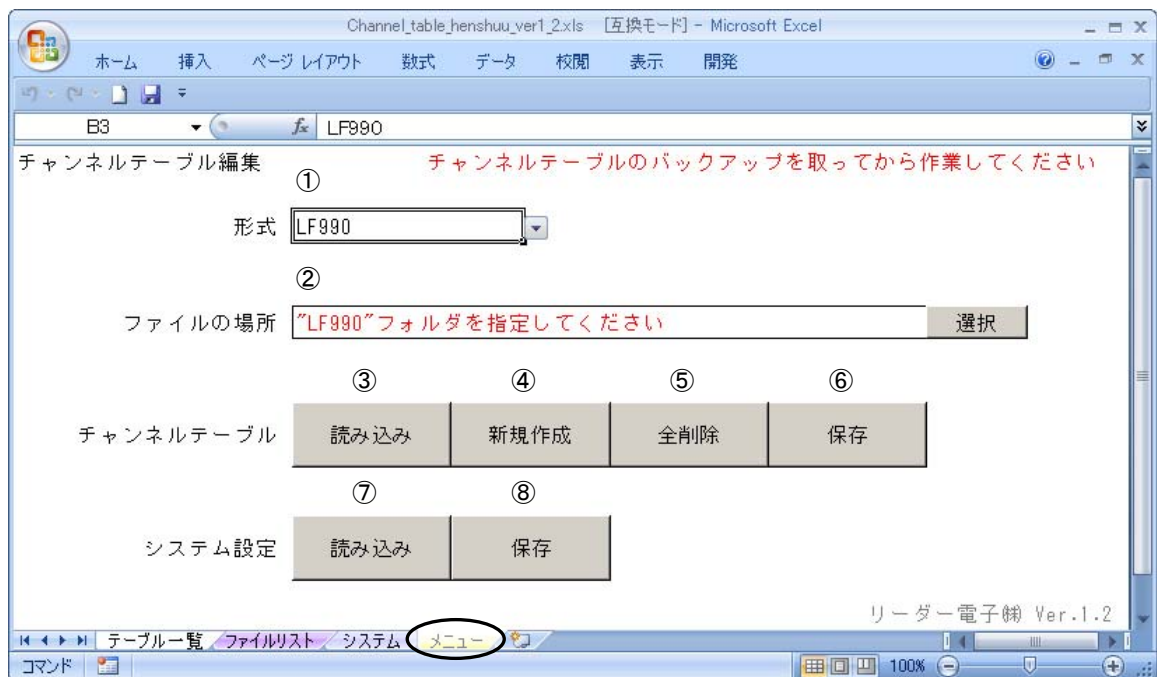
2.2 メニュー画面

「Channel_table_henshuu_verX_X.xls」（X_Xはバージョン）を起動します。（※）

シートの「メニュー」を選択すると、下記のような状態となります。

※ Microsoft Excel 2010 をお使いの方は、Excel を起動させてから「Channel_table_henshuu_verX_X.xls」のファイルを開いて下さい。

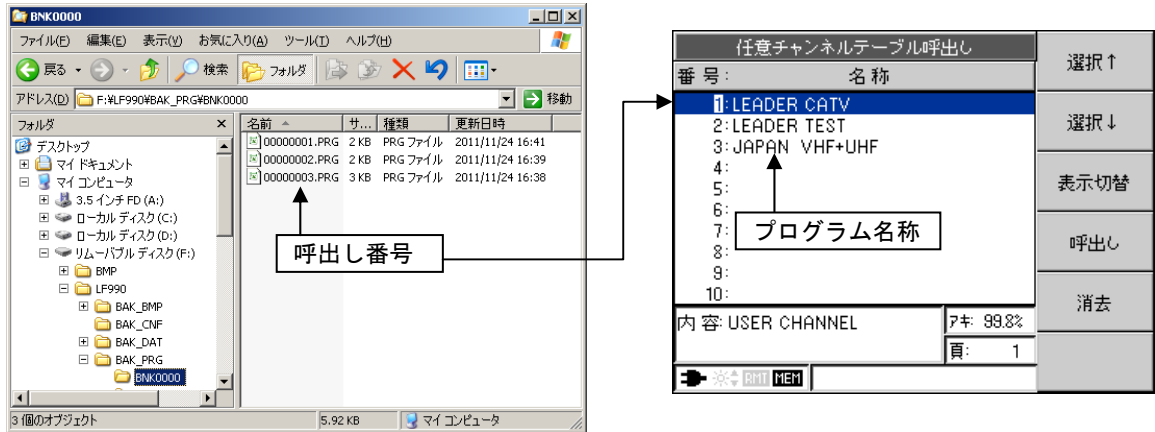
①形式	機種をプルダウンから選択します。	
②ファイルの場所	チャンネルテーブル・システム設定の読み込み先または、作成・編集したチャンネルテーブル・システム設定の保存先を指定します。	
チャンネル テーブル	③読み込み	本体より一括コピーで読み出したチャンネルテーブル、もしくはUSBメモリー（CFカード）内のチャンネルテーブルを編集します。
	④新規作成	新しくチャンネルテーブルを作成します。
	⑤全削除	このExcel上に存在するチャンネルテーブルを全て削除します。
	⑥保存	作成・編集したチャンネルテーブルを保存します。
システム 設定	⑦読み込み	本体より一括コピーで読み出したシステム設定を読み込みします。
	⑧保存	システム設定の保存をします。



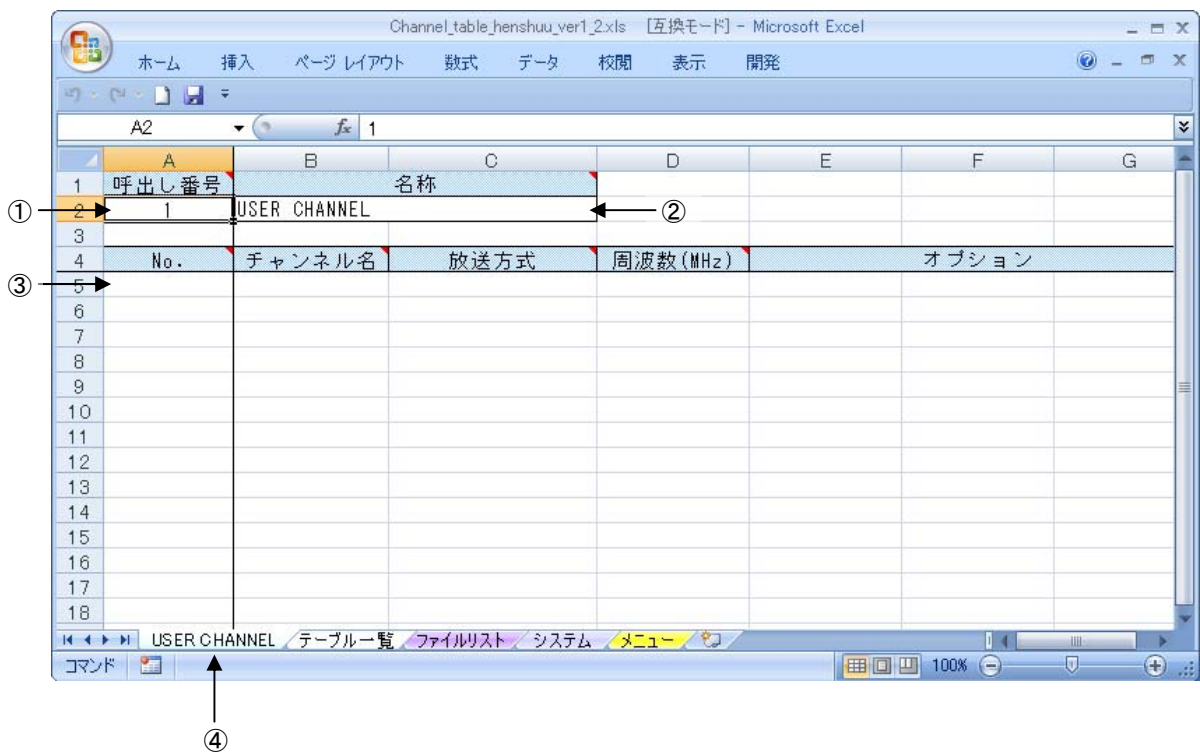
2.3 新規作成

メニューで「新規作成」を選択すると、空白のチャンネルテーブルのシートが作成されます。

- ①呼出し番号：電測内で使用される管理番号。電測で保存時に入力する名称ではなく、保存位置番号を（PC ではファイル名称）示します。（下図参照）



- ②名称：LF990 でのプログラム名称を示します。（上図参照）
 ③チャンネルプラン：チャンネル名称や、周波数などを設定します。
 ④チャンネルテーブル：チャンネルテーブル毎にシートが作成されます。



2.4 チャンネルテーブル作成・編集

チャンネルテーブルを作成します。コピー+ペーストや、6 MHz ステップの増加しながらのコピーなど、基本的には Excel の使用方法で利用できます。

①No.	本ツール上の便宜的な通し番号（自動的に作成されます）。 最大200チャンネル。	
②チャンネル名	電測本体で表示されるチャンネル名称。（最大4文字）	
③放送方式	チャンネルの放送方式。リストより選択。	
④周波数	チャンネルの周波数。 既に周波数、放送方式が記載されている場合、放送方式に応じて周波数が自動的に切り替わります（アナログ⇄デジタルの周波数切替）。	
オプション	⑤ANNEX	放送方式が「CATV デジタル」の場合に ANNEX の設定を行います。
	⑥変調方式	放送方式が「CATV デジタル」の場合に変調方式の設定を行います。
	⑦シンボルレート (MSymbols/S)	放送方式が「CATV デジタル」の場合にシンボルレートの設定を行います。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
No.	チャンネル名	放送方式	周波数(MHz)	ANNEX	変調方式	シンボルレート
1	LEADER TEST	地上デジタル	515.00			
2	21	地上デジタル	521.00			
3	22	地上デジタル	527.00			
4	23	地上デジタル	533.00			
5	24	地上デジタル	539.00			
6	25	地上デジタル	545.00			
7	26	地上デジタル	551.00			
8	27	地上デジタル	557.00			
9	30	CATVデジタル	575.00	ANNEX-C	64QAM	5.274
10	31	CATVデジタル	581.00	ANNEX-B	256QAM	5.361
11	32	CATVデジタル	588.75	ANNEX-C	64QAM	5.274

●注意

- ・ シートの内容を全てコピーして、別のシートを作成し貼付をしても、正しくチャンネルテーブルが作成されません。シートタブを選択してシートのコピーでは可能ですが、基本的にはメニューの「新規作成」「読み込み」機能を使用してください。

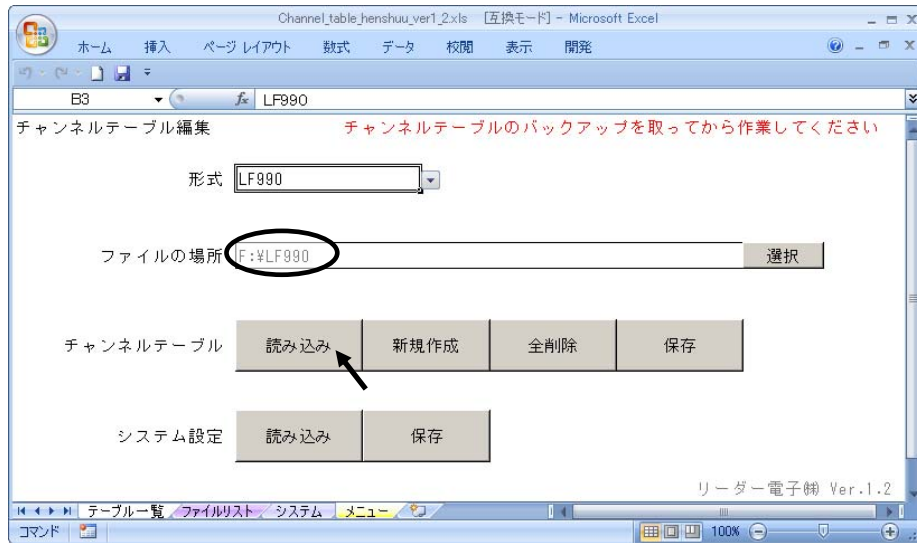
●注意

- ・ シートの移動は絶対に行わないでください。

2.5 チャンネルテーブル読み込み

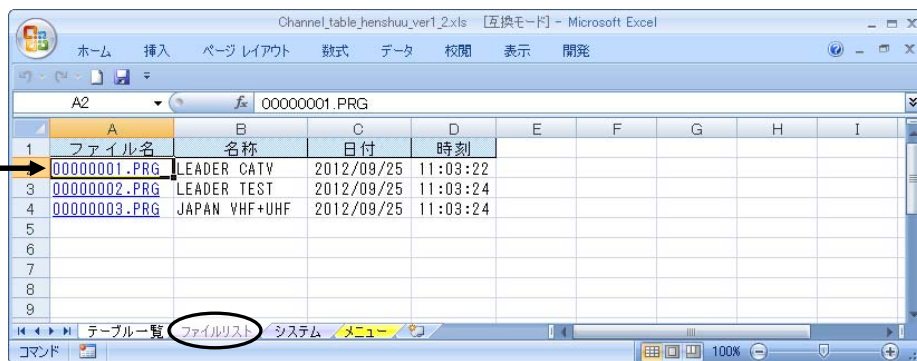
電測により既に存在するチャンネルテーブルを読み込み、編集することができます。

- 1) メニュー画面で「ファイルの場所」の読み込み先を“LF990”のフォルダ(※)に設定し、チャンネルテーブルの「読み込み」を選択します。



※ 「形式」によって読み込み先は異なります。「形式」を選択した際に、「ファイルの場所」にフォルダが指定されるので、そのフォルダを選択して下さい。

- 2) 読み込みが完了すると、ファイルリストにチャンネルテーブルの一覧が作成されます。ファイル名をダブルクリックすると、チャンネルテーブルのシートが作成されます。

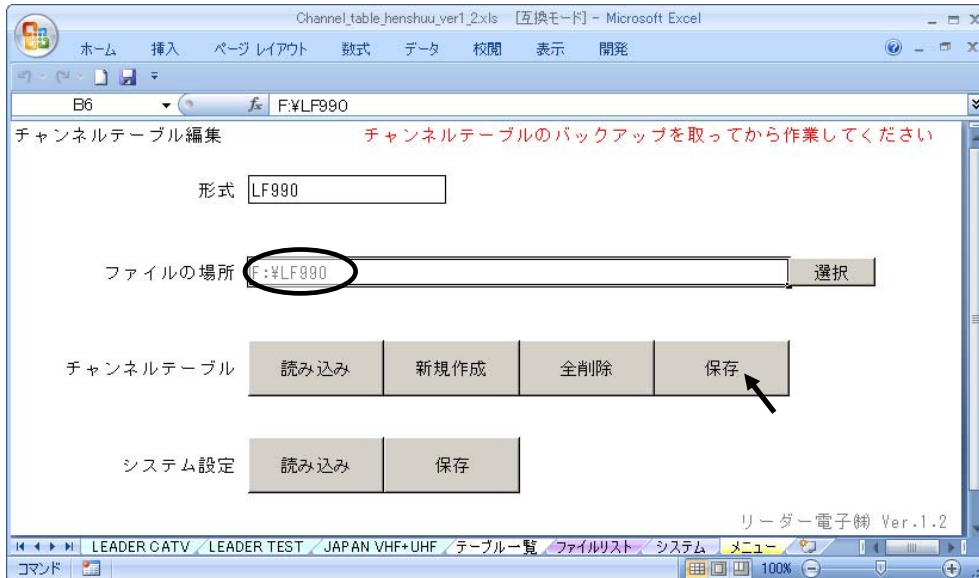


※ Microsoft Office Excel 2003 をお使いの方は、チャンネルテーブルの容量によってシートの読み込みが一定数を超えると、チャンネルテーブルの読み込みができなくなります。

2.6 チャンネルテーブル保存

作成したチャンネルテーブルをUSBメモリー等へ書き込みます。

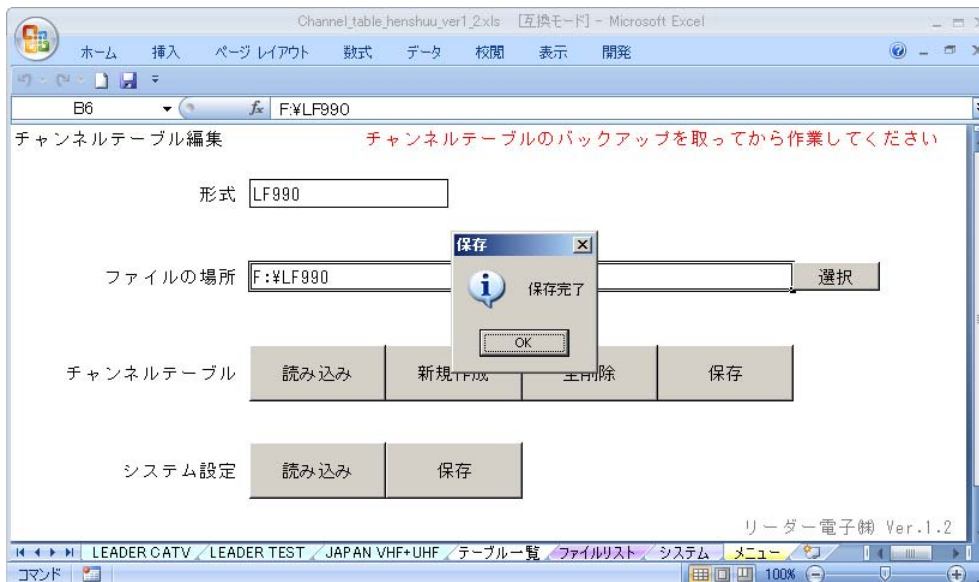
- 1) メニュー画面において、「ファイルの場所」を“LF990”のフォルダ(※)に設定し、「保存」を選択します。複数のチャンネルテーブル（シート）が作成されている場合は、全てのテーブルが保存されます。



※ 「形式」によってフォルダは異なります。「形式」を選択した際に、「ファイルの場所」にフォルダが指定されるので、そのフォルダを選択して下さい。

保存先の詳細は、「2.8 保存先の指定について」を参照して下さい。

- 2) 「OK」を選択すると、保存完了します。



2.7 測定設定・システム設定の読み込み

オートパワーオフや、スレッシュホールド設定（LF990のみ）などの設定を行い電測にコピーすることができます。チャンネルテーブルと同様に、電測本体からの読み込みを行って編集することもできます。

メニュー画面で「ファイルの場所」の読み込み先を“LF990”のフォルダ(※)に設定し、システム設定の「読み込み」を選択します。

■LF990

システム設定			
オートパワーオフ		5分	
明るさ		1	
ピープ音		オン	
レジャーム		オフ	
データ保存		数値のみ	
言語		日本語	
測定単位		dBuV(75Ω負荷)	
レベルオフセット	地上波CATV	5MHz	870MHz
		0.0	0.0
BS/CS		950MHz	2600MHz
		0.0	0.0
マクロ測定	保存先	内部	
	自動保存	しない	
	アラーム	しない	
	保存グループ名	DATA	0
地上デジタル測定設定	BER測定	Pre	
	MER/CN	MER	
	サンプル	1000	
CATVデジタル測定設定	サンプル数	4000	
BS/CS測定設定	C/N MER	モード1	
	サンプル数	1000	
CATV SHB設定		設定1	
スレッシュホールド設定		下側閾値	上側閾値
アナログVIDEO	LEVEL [dBuV]	80.0	90.0
	V/S [dB]	25.0	35.0
アナログSOUND	LEVEL [dBuV]	80.0	90.0
	V/S [dB]	25.0	35.0
地上デジタル	LEVEL [dBuV]	45.0	90.0
	64QAM 1/2	BER(Pre)	1.0E-04
BER(Post)		1.0E-04	0.0E+00
C/N [dB]		18.0	21.0
MER [dB]		18.0	21.0

■LF985, LF985A, LF986, LF5 x

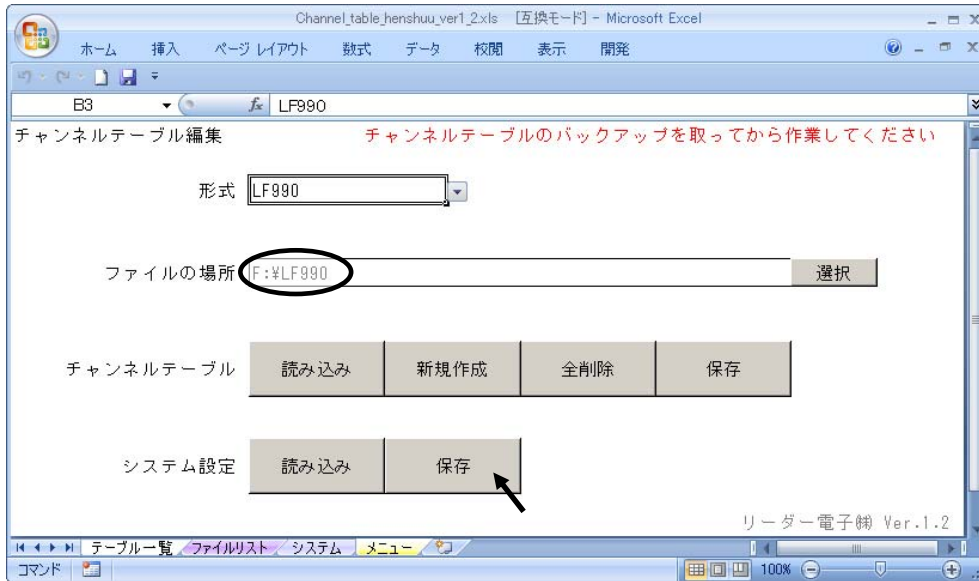
システム設定		
オートパワーオフ		OFF
ピープ音		オフ
照明点灯時間		連続
レジャーム		オフ
印刷タイプ/BMP保存		数値表示
レベル測定単位		dBuV(75Ω負荷)
データ通信	Xパラメータ	有効
	データ長	8ビット
	パリティビット	なし
	ストップビット	1ビット
	ボーレート	9600
BS/CSのCN測定		モード1
CATVチャンネル周波数		設定1

※ 「形式」によって読み込み先は異なります。LF985, LF985A, LF986, LF5 x 場合は、「形式」を『LFxxx(内部)』に選択し、「ファイルの場所」を設定して下さい。

2.8 測定設定・システム設定の保存

作成した測定設定・システム設定を USB メモリー等に書き込みます。

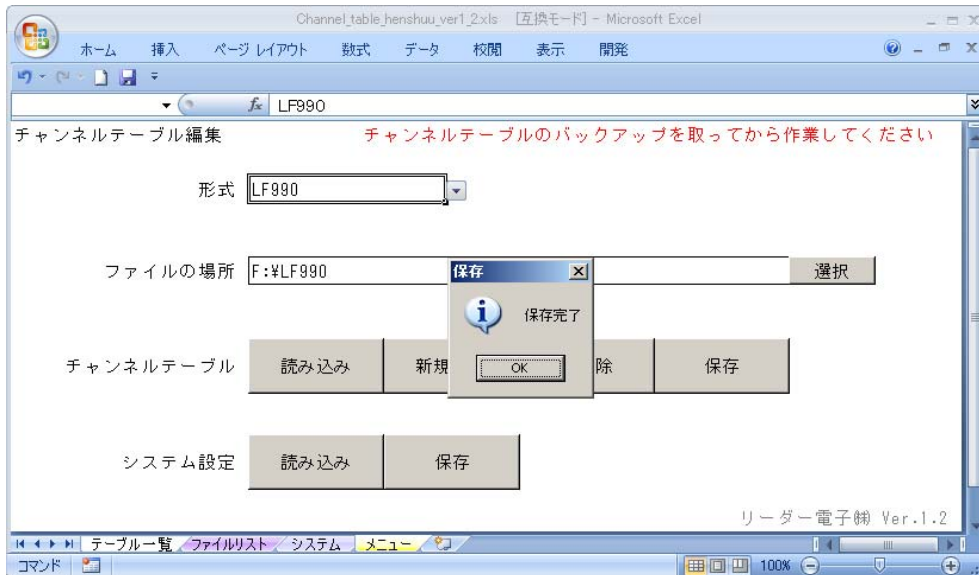
- 1) メニュー画面において、「ファイルの場所」を“LF990”のフォルダ(※)に設定し、システム設定の「保存」を選択します。



※ 「形式」によってフォルダは異なります。LF985, LF985A, LF986, LF5 x 場合は、「形式」を『LFxxx(内部)』に選択し、「ファイルの場所」を設定して下さい。

保存先の詳細は、「2.8 保存先の指定について」を参照して下さい。

- 2) 「OK」を選択すると、保存が完了します。



2.9 保存先の指定について

チャンネルテーブル、測定設定・システム設定を保存する場合、自動的に必要なフォルダが作成されます。

●LF990 の場合

“¥LF990”、“¥BAK_PRG”、“¥BNK****”フォルダを作成し、その下に“呼出し番号.PRG” ファイルを生成します。

- ・保存先を USB メモリーに選択した場合

┆ “¥USB メモリー”

┆ ┆ “¥LF990” ←ここ以下の構造は自動的に作成される。

┆ ┆ ┆ “¥BAK_PRG”

┆ ┆ ┆ ┆ “¥BNK0000”

┆ ┆ ┆ ┆ ┆ ┆ “0000001.PRG”

┆ ┆ ┆ ┆ ┆ ┆ “0000002.PRG”

┆ ┆ ┆ ┆ ┆ ┆ :

┆ ┆ ┆ ┆ ┆ ┆ |

┆ ┆ ┆ ┆ ┆ ┆ ┆ ┆ “¥BNK0001”

●LF985, LF985A, LF986, LF5x の場合（外部）

“PRG”、“BNK****”、“BAK_PRG”フォルダを作成し、その下に“呼出し番号.PRG” ファイルを生成します。

- ・保存先を CF カードに選択した場合（外部）

“¥CF カード”

┆ ┆ “¥PRG” ←ここ以下の構造は自動的に作成される。

┆ ┆ ┆ “¥BNK0000”

┆ ┆ ┆ ┆ ┆ ┆ “0000001.PRG”

┆ ┆ ┆ ┆ ┆ ┆ “0000002.PRG”

┆ ┆ ┆ ┆ ┆ ┆ :

- ・保存先を CF カードに選択した場合（内部）

“¥CF カード”

┆ ┆ “¥BAK_PRG” ←ここ以下の構造は自動的に作成される。

┆ ┆ ┆ ┆ ┆ ┆ “0000001.PRG”

┆ ┆ ┆ ┆ ┆ ┆ “0000002.PRG”

┆ ┆ ┆ ┆ ┆ ┆ :

LEADER

リーダ一電子株式会社 <http://www.leader.co.jp>

本社・国内営業部 〒223-8505 横浜市港北区綱島東 2 丁目 6 番 33 号 (045) 541-2122 (代表)